

令和3年度ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業 報告書

課題名 「フラワーバレンタイン」での県産花きでのPR

所属、担当：西讃農業改良普及センター 吉田 美優

1 課題を取り上げた理由

新型コロナウイルスの影響で、ギフト需要が落ち込んでいる。そのため、「フラワーバレンタイン」を紹介する戦略品目を使ったモニュメントを設置し、新しい物日の定着と、県民への戦略品目の周知、消費拡大を図る。

2 課題解決項目と年次計画

調査期間：令和3年

調査研究の細目課題	研究実施年度					役割分担など 具体的な担当・機関名
	2	3	4	5	6	
モニュメントの設置	○	○				J A三豊地区営農センター J A仁尾中央集荷場 農業生産流通課 三豊市

3 既往の成果

R2年に「公共施設等における花きの活用拡大支援事業」で三豊市庁舎に生花展示を行った。

4 実施内容

- 1) 実施場所 三豊市役所本庁舎 1階待合スペース
- 2) 実施日時 令和4年2月3～15日(土日・祝を除く8日間)
- 3) 内容

・使用花材

キク、マーガレット、カーネーション、ラナンキュラス、ヒマワリ、ダリア、デルフィニウム、キンギョソウ、ストック、キンセンカ、ダウカス、LAユリ、スイートピー、ユーカーリ、チューリップ(鉢物)、サイネリア(鉢物)、カランコエ(鉢物) 計17品目

今回の展示について、新聞やテレビ等のマスコミに取り上げてもらい、県産花きを広く周知することができた。来庁者からも、県産花きを購入したいとの声を多く聞くことができた。しかし、今回は市役所の展示であり、使用花材の販売は実施していなかったため、より効果的に消費に繋げるためには、売り場の確保も必要であると感じた。

5 期待される成果

「フラワーバレンタイン」を定着することにより、落ち込んでいるギフト需要を喚起することができる。

6 展示状況



令和3年度ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業 報告書

課題名 生産者と実需者の連携促進

所属、担当：西讃農業改良普及センター 吉田 美優

1 課題を取り上げた理由

JA 香川県三豊花卉部会は、生産量全国一位のマーガレットをはじめ、ラナンキュラスやキンギョソウ等の様々な草花が栽培されており、関東と関西の市場をメインに販売を行っている。同部会は、毎年出荷が始まる前に市場を訪問して意見交換を行っていたが、新型コロナウイルスの影響でそれが行えなくなった。このことから、WEB 会議システムを活用し、生産者と市場の連携強化に取り組む。

2 課題解決項目と年次計画

調査期間：令和3年

調査研究の細目課題	研究実施年度					役割分担など 具体的な担当・機関名
	3	4	5	6	7	
WEB を活用した情報交換会 ○ 関東市場 ○ 関西市場	○					J A 三豊地区営農センター J A 仁尾中央集荷場 農業生産流通課 農業経営課 農業試験場

3 既往の成果

なし

4 実施内容

① なにわ花いちばとの情報交換会

1) 実施場所 三豊市、なにわ花いちば(Cisco Webex Meeting における同時中継)

2) 実施日時 令和3年10月15日

3) 参加者 生産者9名、市場関係者5名、JA 担当者4名、県関係者6名(別添1参照)

4) 内容

(1) なにわ花いちばにおける販売状況について

市場担当者から、コロナ禍で巣ごもり需要が伸び、量販店やサブスクからの注文が増えていること等需要動向の変化や、昨年4月から稼働している「在宅セリシステム(オンライン取引)」の紹介があった。特に「在宅セリシステム」では掲載する商材の写真が大切であることから、他の品目担当とも連携して出荷前の写真を送ってほしい依頼されるなど、最新の情報を得ることができた。

(2) 三豊花卉部会の秋冬品目の生産状況について

産地からは、生産者が品目ごとにほ場に分かれ、タブレット端末では場を映し、現

在の栽培状況や出荷予定を説明した。(マーガレット、ラナンキュラス、キンギョソウ、デルフィニウム、ダリア) さらに、生産者からは、品種動向や他産地の状況等の質問があり、品目ごとに活発な意見交換が行われた。

(3)意見交換

夏作(ヒマワリ)の評価や市場のコロナ禍での販売の方向性、サブスクリプションでの販売について意見交換があった。

②大田花きとの情報交換会

1) 実施場所 三豊市、大田花き (Cisco Webex Meeting における同時中継)

2) 実施時期 令和4年1月21日

3) 参加者 生産者3名、市場関係者6名、JA担当者3名、県関係者6名(別添2参照)

4) 内容

(1) 三豊花卉部会の秋冬品目の生産状況について

新型コロナウイルスの感染拡大のため、産地での参加人数を減らした形での開催となった。そのため、JA担当者から、各品目の生産状況を画像にて説明した。その後、意見交換では、生産者からカラーバリエーションや品種の評価等について、市場担当者に質問があり、市場担当者からは、それらの回答に加えて、流行の品種や注目すべき顧客について紹介があった。

(2) 株式会社大田花きにおける販売状況について

花き全体の販売情勢について説明があり、年明けからの新型コロナウイルス感染拡大により業務需要が再び減少していることや、ホームユース向け花きが今後の販売を支えること等の需要動向について説明があった。

(3) ショーケースの展示状況について

令和4年1月17~21日にセリ場横のショーケースで県産花きのPR展示を行った。今回は、通常の品種展示に加え、小さめのアレンジメントを飾り、家庭での飾花方法を提案するとともに、ホームユース向けの県産花材を紹介するリーフレットもオークションルームで配布した。ショーケース付近の電波状況が悪かったため、中継できなかったが、後ほど動画をいただいた。5日間と長い期間であったが、最終日まで花散りや傷みなく展示が行えたため、買参人へ品質の良い県産花きのPRとなった。

(4) 意見交換

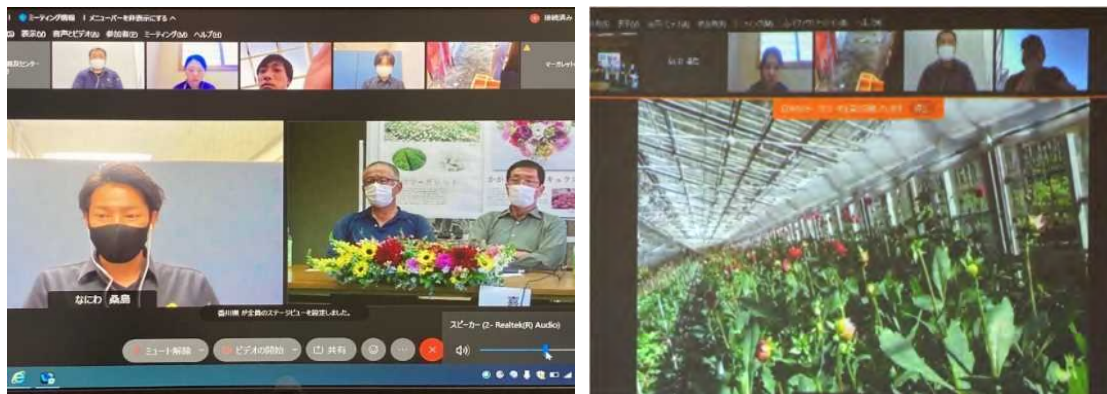
市場から、おすすめの花き品目について紹介があった。(サイネリア、イブニングスター)

また、生産者から、関西市場が導入しているネットセリへの転換意向があるか質問があり、現物を扱うセリの方針を変えないとの回答があった。

5 期待される成果

県産花きの消費拡大、市場ニーズを捉え、販売促進に繋げる

6 写真等



(株) なにわ花いちばとの意見交換およびほ場中継



(株) 大田花きとの意見交換



(株) 大田花きのセリ場横
ショーケースの展示状況

(別添1)

令和3年度ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業
生産者と市場の情報交換会(なにわ花いちば) 出席者名簿

日 時 令和3年10月15日 13:30 ~15:30

場 所 JA香川県仁尾町支店

Cisco Webex Meetingにてオンライン同時中継

氏名	所属・職名
竹村 和彦	(株) なにわ花いちば 部長
桑島	(株) なにわ花いちば 営業部係長
西山 晴菜	(株) なにわ花いちば 営業部主任
高橋 充	(株) なにわ花いちば 営業部販売担当
岩崎 記弥	(株) なにわ花いちば 営業部販売担当
筒井 英樹	JA 香川県三豊地区営農センター センター長
山下 芳基	〃
石井 学	JA 香川県仁尾中央集荷場 所長
高岡 謙吾	〃
喜田 直樹	三豊花卉部会 部会長
河田 進	〃 副部会長
浪越 久司	〃 副部会長
藤原 亜紀	香川県農業生産流通課 主任
森田 知子	香川県農業経営課 主席専門指導員
村口 浩	香川県農業試験場 主席研究員
伊藤 周二	香川県西讃農業改良普及センター 主席
小林 弥生	〃 副主幹
吉田 美優	〃 技師

マーガレットほ場

大崎 正義	三豊花卉部会 マーガレット部会長
小野 忠	三豊花卉部会 マーガレット部会

ラナンキュラス・キンギョソウほ場

河田 進	三豊花卉部会 副部会長・草花部長
白井 靖久	三豊花卉部会 ラナンキュラス部会長
喜田 秀次	三豊花卉部会 草花副部会長

デルフィニウム・ダリアほ場

曾根 大地	三豊花卉部会 デルフィニウム部会
高畑 耕作	三豊花卉部会 デルフィニウム部会

(別添2)

令和3年度ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業
生産者と市場の情報交換会(大田花き) 出席者名簿

日 時 令和4年1月21日(金) 10:00 ~12:00

場 所 香川県西讃農業改良普及センター

Cisco Webex Meeting にてオンライン同時中継

氏名	所属・職名
田中 薫	(株)大田花き 草花チームリーダー
多田 裕也	(株)大田花き ラナンキュラス担当
山岸 彩香	(株)大田花き ラナンキュラス担当
石原 旭	(株)大田花き その他草花・キンギョソウ担当
酒井 宏基	(株)大田花き アスター・デルフィニウム担当
渡邊 愛美	(株)大田花き キンギョソウ・マーガレット担当
喜田 直樹	三豊花卉部会 部会長
河田 進	三豊花卉部会 副部会長
浪越 久司	三豊花卉部会 副部会長
石井 学	JA 香川県仁尾中央集荷場 所長
高岡 健吾	JA 香川県仁尾中央集荷場
山下 芳基	JA 香川県三豊地区営農センター
森田 知子	香川県農業経営課 主席専門指導員
村口 浩	香川県農業試験場 主席研究員
山下 将吾	香川県東京事務所市場担当主任
北濱 郁雄	香川県西讃農業改良普及センター 所長
小林 弥生	香川県西讃農業改良普及センター 副主幹
吉田 美優	香川県西讃農業改良普及センター 技師

「第五回全国高校生花いけバトル香川大会」開催結果

1 行事名 「第五回全国高校生花いけバトル香川大会」

2 日 時 令和3年8月21日(土) 13時30分～17時30分 (集合10時30分)

3 会 場 観音寺市民会館(ハイスタッフホール) 小ホール
〒768-0060 観音寺市観音寺町甲1186-2

4 主 催 花の里かがわ推進委員会

5 後 援

観音寺市、(一財)日本花普及センター、(一社)日本花き卸売市場協会、(一社)日本花き生産協会、(一社)花の国日本協議会、(一社)日本イベント産業振興協会、NHK高松放送局、OHK岡山放送、RSK山陽放送、KSB瀬戸内海放送、TSCテレビせとうち、RNC西日本放送、朝日新聞高松総局、産経新聞社、四国新聞社、毎日新聞高松支局、読売新聞高松総局、(株)日本政策金融公庫高松支店農林水産事業

6 企画・運営 (一社)花いけジャパンプロジェクト

7 大会趣旨

若い世代への花と緑の普及啓発を図り、花に親しんでもらう機会を増やすことを目的として開催している。全国12地区(北海道、宮城、茨城、関東、北陸、岐阜、近畿、広島、香川、四国、福岡、沖縄)で地方大会を実施し、地方大会の代表校は決勝大会に参加する。

8 参加資格 県内の高等学校に在学中の生徒

9 審査基準

制限時間5分間以内で、時間内にステージに用意された花材を選び、即興で花を生ける。無観客開催により、審査は主催者が選任した審査員3名が採点表を用い評価する。なお、観客による審査が行われないことに伴い、予選ラウンドの勝ち点制は採用しない。

審査は、5分間を楽しく、元気よく、花のいのちと向き合い花をいけていたかを評価する「表現点」と、完成した作品そのものを評価する「作品点」の2項目が判定の基準となり、審査員の点数は「表現点」と「作品点」の合計で決定される。

10 選賞計画

優勝(全国大会出場)	1チーム
準優勝	1チーム
香川県婦人団体連絡協議会長賞	1チーム

11 観 覧

無観客開催とした(大会の様子はYoutubeによりライブ配信を実施するとともに、アーカイブでも視聴可能)。配信URL：<https://youtu.be/u3AAMTsMIInk>

12 その他

出場者、スタッフには、全国高校生花いけバトル感染防止ガイドラインに基づき、事前に体調の悪い場合の欠席を呼びかけるほか、会場内においても感染症予防対策の徹底を図った。

13 オリエンテーション

- (1) 日時 8月1日(土) 9:30~12:30
 (2) 観音寺市民会館(ハイスタッフホール) 小ホール
 (3) 参加者 香川大会参加チーム

14 参加チーム 13校24チーム

出場校	チーム名	備考
香川県立飯山高等学校	飯山 愛・愛	
	飯山 ひまわり	
	飯山 花笑み	優勝(決勝大会に出場) 香川県婦人団体連絡協議会長賞
村上学園高等学校	鈴蘭	
香川県立農業経営高等学校	拓心	
	poco a poco	
	主基フラワーボーイズ	
香川県立坂出高等学校	アサガオ	
	葵	
香川誠陵高等学校	向日葵	
	牡丹	
高松第一高等学校	若菜	
英明高等学校	暁	
	奏絃	
香川県立坂出商業高等学校	花音	
	菜々	
村上学園高等学校 高松	whisteria pine	
	創生	
	きりたんぼ組	
香川県立観音寺総合高等学校	紫陽花	
香川県立琴平高等学校	プルメリア	
香川県立笠田高等学校	バスフレ	準優勝
	ことりな	
尽誠学園高等学校	サンフラワー	

15 結果

【優勝】【香川県婦人団体連絡協議会長賞】

香川県立飯山高等学校 「飯山 花笑み(はんざん はなえみ)」

【準優勝】 香川県立笠田高等学校 「バスフレ」

16 使用花材

【香川県産花き】 輪ギク、ヒマワリ、テッポウユリ、大輪アスター、オリーブ等

【徳島県産花き】 ケイトウ、黄金ヒバ、ガーベラ

【高知県産花き】 グロリオサ

【愛媛県産花き】 ユーカリ、メラレウカ、ピットスポラム、コニファー、フェイジョア



予選の様子



決勝戦の作品 (左：笠田高校 右：飯山高校)



優勝チーム 「飯山 花笑み」(※撮影のためマスクを外しています)



県産花きを含む約 70 種類の花材



四国の花の展示



受付の感染対策

12月11日開催 全国高校生花いけバトル四国大会での四国の花の展示



四国の花展示コーナー



香川県の展示



大会ライブ中での各県の花の紹介

第五回全国高校生花いけバトル栗林公園杯 2021 開催結果

1 目的

花きの需要は低下傾向にあり、中でも若年層の消費が少ない中、「全国高校生花いけバトル」を起爆剤として若い世代を中心に花きへの関心を高めて新たな需要創出を図り、花き文化の振興を図るとともに、国産花きを周知し、利活用方法を提案することにより、国産花きの普及拡大を図る。

2 主催

全国高校生花いけバトル実行委員会（香川県、花の里かがわ推進委員会、一般財団法人日本花普及センター、香川県教育委員会、一般社団法人工芸美術日工会、香川県花卉商業協同組合、公益社団法人日本フラワーデザイナー協会香川県支部、公益財団法人日本いけばな芸術協会、香川インテリアコーディネーター協会、香川県花き園芸協会、株式会社高松花市場）

3 後援

農林水産省、経済産業省、北海道、宮城県、茨城県、石川県、岐阜県、大阪府、広島県、福岡県、沖縄県教育委員会、(一財)日本花普及センター、(一社)日本花き卸売市場協会、(一社)日本花き生産協会、(一社)花の国日本協議会、(一社)日本イベント産業振興協会、NHK 高松放送局、OHK 岡山放送、RSK 山陽放送、KSB 瀬戸内海放送、TSC テレビせとうち、RNC 西日本放送、朝日新聞社、産経新聞社、四国新聞社、毎日新聞社、読売新聞高松総局、朝日放送グループホールディングス(株)、(株)日本政策金融公庫高松支店農林水産事業、花の里かがわ推進委員会

4 協賛

アース製薬(株)

5 協力

全日本空輸(株)、日本航空(株)、日本郵便(株)

6 スケジュール

時期	実施内容
令和3年4月13日(火)	実行委員会総会
令和3年7月~12月	各地区大会
令和4年1月21日(金)	決勝大会リハーサル
令和4年1月22日(土)	決勝大会予選ラウンド
1月23日(日)	決勝大会決勝トーナメント

7 地区大会

北海道、東北、茨城、関東、北陸、岐阜、近畿、広島、香川、四国、福岡、沖縄
計12地区で開催

大会名	開催日・開催場所	参加校数	参加チーム数
北海道大会	7月25日(日) モエレ沼公園 (北海道・札幌市)	7	15
広島大会	7月31日(土) アルパーク (広島県広島市)	8	18
香川大会	8月21日(土) ハイスタッフホール (香川県観音寺市)	13	24
北陸大会	10月3日(日) 北國新聞交流ホール (石川県金沢市)	3	7
岐阜大会	10月16日(土) ぎふワールド・ローズガーデン (岐阜県可児市)	8	17
沖縄大会	10月31日(日) アイム・ユニバースてだこホール (沖縄県浦添市)	4	11
福岡大会	11月7日(日) アクロス福岡 (福岡県福岡市)	5	14
近畿大会	11月14日(日) 三井アウトレットパーク大阪鶴見 (大阪府大阪市)	10	22
関東大会	11月23日(火) サンシャインシティ (東京都豊島区)	9	16
茨城大会	11月27日(土) ザ・ヒロサワ・シティ会館 (茨城県土浦市)	9	21
東北大会	12月5日(日) 仙台中小企業活性化センター (宮城県仙台市)	8	16
四国大会	12月11日(土) ハイスタッフホール (香川県観音寺市)	6	9
計		90	190

8 決勝大会日程

令和4年1月22日(土) 13:00~17:00

1月23日(日) 9:30~12:30

9 会場

レクザムホール小ホール(香川県高松市玉藻町9-10)

10 出場校

- ・北海道大会 北海道札幌白陵高等学校 「レモンスカッシュ」
- ・茨城大会 茨城県立土浦第一高等学校 「雪月風花」
- ・関東大会 正則学園高等学校 「ニューパイン」
- ・北陸大会 石川県立野々市明倫高等学校 「ノンキー」

- ・岐阜大会 岐阜県立岐阜商業高等学校 「チームGIFUSHO」
- ・近畿大会 相愛高等学校 「相愛凜佳」
- ・広島大会 広島県立福山誠之館高等学校 「フラワークラウン」
- ・香川大会 香川県立飯山高等学校 「飯山 花笑み」
- ・四国大会 高知県立岡豊高等学校 「パセリ」
- ・福岡大会 福岡舞鶴高等学校 「うぐいす」
- ・沖縄大会 沖縄県立読谷高等学校 「Keep Smiling」

新型コロナウイルスの感染が拡大する状況を鑑み、宮城大会の優勝校 宮城県柴田農林高等学校は出場を辞退。大会は上記11校で実施。

11 審査

(1) 審査員

- 深井誠一（花の里かがわ推進委員会会長）
- 小西博子（染色作家／一般社団法人工芸美術日工会）
- 伊藤庭花（いけばな作家／小原流）
- 滝謙一（フラワーデザイナー／丸亀フラワーセンター）

(2) 審査方法

全国高校生花いけバトルの審査は、有識者による審査員と観客によりジャッジを基本としているが、今大会は無観客開催のため、審査員4名が作品点ならびに表現点を採点した。

12 表彰

- 優勝：優勝表彰状／農林水産大臣賞
茨城県立土浦第一高等学校「雪月風花」
- 準優勝：準優勝表彰状／農林水産省農産局長賞
相愛高等学校「相愛凜佳」
- 第3位：アースガーデンまもるくん賞
香川県立飯山高等学校「飯山 花笑み」
- 第4位：日本花き生産協会会長賞
高知県立岡豊高等学校「パセリ」
- 日本花き卸売市場協会会長賞
正則学園高等学校「ニューパイン」
- 花の国日本協議会長賞
福岡舞鶴高等学校「うぐいす」
- 日本花普及センター会長賞
石川県立野々市明倫高等学校「ノンキー」
- 花の里かがわ推進委員会会長賞
広島県立福山誠之館高等学校 「フラワークラウン」
沖縄県立読谷高等学校「Keep Smiling」
- 香川県花き園芸協会会長賞

北海道札幌白陵高等学校 「レモンスカッシュ」
岐阜県立岐阜商業高等学校 「チーム GIFUSHO」

13 花 材： 以下の県産花材、提供花材を含む81種類を使用

- ・ 県産花材：（輪ギク、ラナンキュラス「てまりシリーズ」、マーガレット、カーネーション「ミニティアラシリーズ」）、羽衣ジャスミン、オリーブほか枝物
- ・ 宮城県（宮城県花と緑普及即支援協議会）提供：バラ、ガーベラ、スタンダードカーネーション
- ・ 広島県（精興園）提供：各種キク
- ・ 大阪府（花き園芸連合会）提供：胡蝶蘭、大王松、山茱萸

14 開催方法

大会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、無観客開催とし、大会の様子は、動画配信サイト Y o u T u b e でライブ配信を実施した。

15 香川県が開催する主な理由

- ◇ 丸亀市出身の故・中川幸夫氏（1928～2012年）が、「流派」に属さず「流派」を持たない「前衛いけ花」作家として活躍（音楽家や舞踏家との花をいけるパフォーマンスなど）。
- ◇ 一般社団法人花いけジャパンプロジェクトのメンバーが中川幸夫氏の影響を受け、一般（大人）の花いけバトルを実施。
- ◇ 若い世代を中心に花きへの関心を高める手段として、本県が輩出した中川幸夫氏を源流とする「花いけバトル」に着目し、花いけジャパンプロジェクトの協力のもと、本県を高校生花いけバトルの聖地とすべく、全国に先駆けて高校生の花いけバトルを実施。

県産花き認知度アンケート調査

実施日：令和4年3月14日

実施場所：栗林公園栗林庵

実施対象：ラナンキュラスの販売に合わせ一般の購入者に実施、回答者数27名)

